図画工作科研究実践授業

下伊那大会研究テーマ

思いつながる広がる私の造形ネットワーク
～自分らしさを楽しむ授業へ～

図画工作科研究テーマ

思いを持ち，自分らしさを楽しむこどもたち

日時　令和２年７月７日　５・６校時
題材名　物語から広がる世界（絵画）
会場　６年３組教室
学級　３年　男子　12（1）名　女子　14名　計　26（1）名
授業者　桐生　姿華美 教諭
指導者　志摩　宏道 先生（長野県教育委員会学びの改革支援課指導主事）

1　テーマ設定の理由

昨年度は，①素材と関わりながら，自分なりの形や色をつくり出すことのできる造形活動のあり方，②造形遊びにおける評価のポイントを明確にした授業　の２つの観点から造形遊びにおいて研究を行った。

①　では，提示した素材を「使いたい」，「あんなことをしたい」と子どもたちが思うような導入，それを扱うことができる素材経験と用具経験の積み重ね，子どもたちが扱いやすい素材の教材研究，そして子どもたちの発想や構想，技能の実態把握などの重要性を知ることができた。

また，②では，評価のポイントを明確にすることで，題材における指導事項にそった支援や指導を絞ることができることも明らかになった。その反面，つくったものや造形活動の完成度や見栄えで子どもたちが楽しさや満足感を得られなかったり，つけたい力とは違った教師の「こんな作品をつくってほしい」という思いや見方による評価や支援も見られた。そこで本年度は，

１）「思い（あんなことやりたい・こんなふうにしたい）」をもつ
⇩
２）「思い」を実現するための方法を「これまでの経験」・「友だちとの関わり」・「教師の手立て」から知ったり得たりする
⇩
３）自分なりに造形活動を楽しんだり，表現に満足したりするなど，自分の色や形等の意味や価値をつくりだす

という造形活動の展開を想定し，価値や意味をつくり出し，自分らしさを色や形を通して楽しむ子どもたちをめざしてテーマを設定した。

２　研究の内容

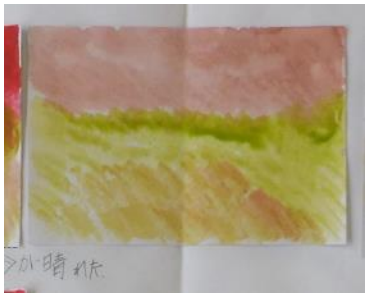
（１）「ぼく・わたしの感情アルバム」（６学年）の実践より

６学年最初の題材として自分の「喜び」や「悲しみ」といった感情を５㎝×８㎝ほどの画用紙に絵の具等を使って表現する活動を行った。

感情を色や形で表すという抽象表現であったが，３，４，５学年と毎年感情表現を行う題材を扱ってきたこともあり，表現することへの抵抗感はほとんどなかった。

逆に具象表現のようにいわゆる「上手・下手」の差を感じにくく，とても主体的に表現に取り組むことができた。

▲ Ｋ児「ぼく・わたしの感情アルバム」①



これまで図工では，あまり目立たなかったＫ児は，第１時に「にくしみ/うらみ」，そこから「(にくしみ/うらみ) が晴れた」という気持ちの変化を連作として表現した。

教師が，「そういう感情の移り変わりを表すっていうこともできるんだね。」と全体の前で取り上げた。

このことにより，Ｋ児は，「こういう図工，すごく面白い！」とどんどん表現を行っていった。

ここで教師が取り上げたことは，表現のよさではなく，移り変わりという表現方法・表現手段のよさであった。絵ではなくても，自分の表現への向き合い方を認められたことで，表現への意欲が高まったと考えられる。また，このことで教師自身も「こうやりなさいという図工は楽しくない」と感じた。

一方，この題材で見られたのは，「思いや表現を深める」という意識の低さであった。画用紙全体のバランスがよくなり画面が完成した感じになると満足して追求をやめる傾向があった。「あんなことをやりたい・こんなふうにしたい」という思いは，導入の段階に持つだけでなく，表現が始まってから新たに生まれたり，変化したりするものであるということを考え，次の実践に繋げた。

▲ Ｋ児「ぼく・わたしの感情アルバム」②

（２）「想像の翼を広げて」（６学年）の実践より

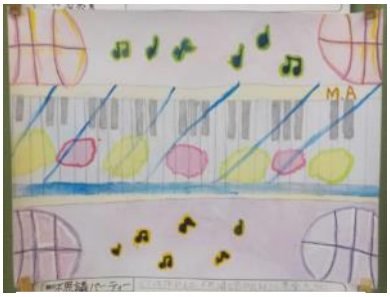
ゆめの中，こころの中に思い浮かんだ光景を自由に描くという題材。「目に見えないもの」「頭の中にあるもの」を描くということは，前題材でもやっていたので，抵抗なく表現することができた。

前述の「思いや表現を深めるという」課題に向けて，１時間の表現活動（鉛筆での下描き）を行ったところで，「思いを深める」ために下のような，絵を描き進めていった２年生の「お話の絵」の作品を提示した。

「時間帯は？」「場所は？周りにはどんなものがある？」「どんな気持ち？」「どんな表情？」などを教師が尋ねると，どんどん描きこんでいったという話をしたことで，子どもたちは，自分にはなかった発想の観点に気づくことができ，思いを深めながら描きこむことができた。

Ａ児は，当初描いていたバスケットボールと鍵盤に加え，音符，鍵盤の上の青い斜め線や赤と黄色の雲のような形（これらは，ピアノを弾くと出てくる音のイメージを表している）を描き込み，バスケットボールに白や黄色を入れた。Ａ児は，

「楽しかった。思っていた感じにできた。」と感想を述べていた。



▲ Ａ児「不思議「パーティー」

漠然とした「思い」を持っている子どもが，思いを膨らめるための観点を得ることで，思いがはっきりしたり，新しい思いをもったりすることができることがわかった。また，「思いを広げる・深める」という思考的な部分と「描きすすめる・描きこむ」とい表現的な部分がつながったようにも感じられた。

（3）本時「物語の絵」で使用する「物語」選びの教材研究

上記の実践を通して、子どもたちが，「思い」をもつには，

①作品自体ではなく自分の発想や構想のプロセスも評価されること
②「あんなことをやりたい・こんなふうにしたい」という思いがより具体的になること

が大切ではないかということが見えてきた。ただ，『③題材との出会いや導入等で「やりたい・描きたい」と思うこと」も大切であると考える。

そこで，子どもたちが「描きたい」と思えるのはどんなお話かを考えるために，図書館から何冊かの本を持ち寄り，子どもたちが実際に物語を聞いて，どのような場面を描きたいと思うのか，またどのような物語が想像力を膨らませ描きたいと思わせるのかを学習カード（指導案資料）を用いて考えた。

読んだ物語は，以下のものである。

番号	タイトル	考察
1	エパミナンダス	絵本によくある「繰り返し」による表現が面白いが，「ケーキを紐に縛って歩く」「バターを帽子に入れて持ち歩き，バターが頭から滴り落ちる」等，動きの表現が細かく，描きにくいように感じられた。
2	ついでにペロリ	登場するものが多く，描きやすいものが多い点が◎。「へそまがり」「つむじ曲がり」等の登場人物がわからないというものもあった。また，描きたくなる場面が最後の場面にほぼ絞られた。
3	ちんちんこばかま	「姫」「たくさんの小人」等想像は容易にできたが，「着物の姫」「ちょんまげ・袴の小人」が意外に描きにくかった。
4	うみきりん	「うみきりん」というものが何かわからないところが一番の魅力。どんなものなのかを想像しながら描くことができる。
5	世界一大きなうち	具体的な描きやすい描写が多く，そこから想像が広げやすい。比喩表現もたくさんでてくるため，想像をかき立てられる場面が多い。
6	フライパンじいさん	主人公が動物ではなく，場面の情景や描くものが想像しやすい。

ここから，下記のことに注意して物語を選ぶことで，子どもたちは描きたい場面や思い等を持ちやすくなるのではないかと考えた。

①描きたい中心になるものが，描きやすいもの。
②場面の情景がわかりやすく描写されている。また、具体的に思い浮かぶことができる。
③人物を描かなくてもよい。

心の中にとまったもの，描きたいと思ったものなどを，まずは文字にしてみることで，どんな絵を描くかとても整理しやすかった。また，１つの物語に絞らず，ジャンルを含めて選べるようにすることで描きたいものが見つけやすくなった。

ただ，「これを描きたい」「こんな場面を描こう」という思いをもつことができても，頭の中にあるイメージを画用紙上に形や色で表現するためには，個々に応じて難しいことも感じられた。何を，どの場所に，どれくらいの大きさで，どの向きに描くとよいだろうというような思いであった。

ここは，「思いを実現する」と同時に「思いをより表現する」という面も兼ねていると考えられた。本時は，この部分を子どもたちに考えて欲しいと思い，めあてを設定した。

３　学習指導案

（1）　題材名　「物語から広がる世界」

（2）　目標

物語を味わい，その情景を想像して，表現方法を工夫して絵に表すことができる。

（3）評価規準

① 表したい情景のイメージに合った表現方法を工夫している。（知識・理解・技能）
② 心が動いた物語の情景を想像し，表し方や構成を考えている。（思考力・判断力・表現力）
③ 心が動いた情景を想像し，絵に表すことに取り組もうとしている。（学びに向かう力・人間性等）
④ 友人と作品を見せ合い，形や色の造形的な特徴から，作品の表し方のよさを感じ取っている。

（学びに向かう力・人間性等）

（４）　指導上の留意点

・子どもたちが，想像したものを描くためのもとになる学習カードを用意する。

（５）展開の大要と評価計画

時数	○児童の活動	評価の観点
1	○3 つの物語を聞いて，絵に表すことに興味をもつ。 ・物語に登場するものや情景などを学習カードに絵や言葉でかく。 ・描きたい場面を選び，選んだ理由やどんなものを描きたいのかを学習カードに書く。 ・お話を必要に応じて読み返す。	◇描きたい場面を選び，絵に表すことに取り組もうとしている。 （学びに向かう力・人間性等）
2 本時	○描きたい場面の情景や様子を想像したり考えたりして，発想を膨らめたり，描きたいものを具多的に考えたりする。 ・一番描きたいこと・ものを決める。 ・描きたい場面の時間帯や周りにどんなものがあるかなどを考える。 ・友だちに描きたい場面について説明したり，質問したりして，想像を膨らませたり，描きたいものをはっきりさせたりする。 ・描きたいもの・ことなどを付箋に書いて学習カードに貼る。	◇一番描きたいこと・ものを決め，それを表現するために描いていくものを考える。（思考力・判断力・表現力）
3	○描きたい場面の様子が表現できるように構図を考え，下描きをする。 ・描くものの大きさや配置する場所により，表現が変わることを感じる。 ・自分の思いがより表現できるように，画用紙の大きさや縦横を考える。	◇描きたい場面がより効果的に表せる構成を考えながら，下描きをしている。（思考力・判断力・表現力）
4 5 6	○描画材を選んだり，描き方を工夫したりして表す。 ・自分の表現に必要な描画材を選んで表す。 （クレヨン・コンテ・色画用紙など） ・イメージに合った着色を用紙に試しながら表す。	◇選んだ場面の雰囲気や自分の思いに合った表現方法を工夫している。 （知識・理解・技能）
7	○友だちと作品を見合い，感じたことや気づいたことを伝え合う。 ・自分の作品作りを振り返り，描きたかった場面をどんな風に描いたか，表したいものが表せたかついての感想を学習カードに書く。	◇友だちと作品を見せ合い，思い描いた場面の形や色の造形的な特徴から，作品のよさを感じ取っている。 （思考力・判断力・表現力）

（６）本時案

①　主眼

３つの物語を聞き，描きたい場面を選んだ子どもたちが，時間帯や周りの風景，イメージする色，形について考えたり友だちと話し合ったりすることを通して，描きたい場面の想像を膨らませることができる。

②　指導事項

Ａ表現（イ）：絵や立体，工作に表す活動を通して，感じたこと，想像したこと，見たこと，伝えたいことから表したいことを見つけることや形や色，材料の特徴，構成の美しさなどの感じ，用途などを考えながらどのように主題を表すかについて考えること。

③　本時の位置（全７時間中第２時）

前時：３つの物語を聞き，気になった場面や情景などを文字や絵でメモし，描きたい場面を選んだ。
次時：より描きたい感じがでるように工夫しながら描きすすめる。

④　指導上の留意点

描きたいことやものがイメージできるように、お話の内容を書いたものを提示しておく。

⑤　準備品

児童：学習カード，描画用具
教師：お話の内容を書いたもの（文字だけ），画用紙

⑥　展開

時	段階	学習活動と予想される児童の姿	○教師の指導・評価	時間
本時	導入	1　どんな場面が描きたいか確認する。 「どんな場面を描こうと思ってる？」 ・うみきりんが海から顔をだしているところ。 ・うみきりんが海藻を食べているところ。 ・カタツムリの家がバースデーケーキみたいになているところ 「画用紙にもう描き始められそうかな？」 ・無理。 ・もうちょっとどんな風に描くか考えたい。 「じゃぁ，描きたいと思って始められるように，『何が一番描きたいか』とか『具体的にどんなものを描くか』とか，考えてみようか。」 【めあて】 『一番描きたいもの・こと』や『時間帯』『周りにあるもの』『色』『形』など，描きたい場面に近づくように描くものを考えてみよう。	○描き始めるにあたって，心配なことを出してもらう。	3 2 2
		2　描きたいもの・ことを膨らめたり，具体的にする 「学習カードに描きたい場面の時間帯や描きたくなったものなどを赤でかいてみよう。」 ・顔を出しているところだけど，海の下の部分も描いてみたいな。魚とかも入れて。 ・海藻を食べるのは朝ご飯だと思ってたから，朝だな。じゃぁ、日の出を描こうかな。 ・一番描きたいのは，すごくゴージャスなケーキだな。３段ぐらいのケーキ。周りは，何があるかな…。 ・絵でも描いていいかな？ ・普通のカタツムリも周りに描いた方がいいな。大きさが伝わりそう。	○「いつ」「どこで」「何が」「どうする」等，児童にポイントとなる言葉を使って質問することで，イメージを広げる。 ○描きたいと思ったのやイメージを言葉や絵で，どんどんかいていくように促す。 ○場面のイメージが膨らまないような児童には，お話をもう一度読んでみるように促す。	28
	追究①	「友だちに，他にどんなこと考えたら想像が膨らむか，聞いてみてね。」 ・雰囲気とか書くものいいかも。うれしそうな感じとか。 ・前にやった感情アルバムが使えるかも。 3　膨らんだ想像，描こうと思ったものを発表する。 「一番描きたいことと，そのためにどんなものを描こうと思ったのかみんなに伝えてみよう。」 ・描きたい場面は，うみきりんの背がものすごく大きいところです。それがわかるように周りのものすごく小さく描いたり，見上げてびっくりしてたりする人を描いたりしたいと思います。 ・一番描きたいのは，カタツムリの家がすごいバースデーケーキになっている場面です。ケーキを３段にしたり，リボンをつけたりしてゴージャスにしたいです。あと，そのことを話している鳥とびっくりしているカタツムリを描こうと思います。	○他の児童が気づいていない観点に気づき，思いを膨らませている児童がいたら，みんなに聞こえるように称賛する。 ○めあてが達成できている児童には，積極的に発表してもらう。 時間帯や周りの風景，イメージする色，形について考えたり友だちと話し合ったりすることを通して，描きたい場面の想像を膨らませ描き始めることができた。	10

第三時	追究②	4　下描きの前に画面構成を考える。 「そろそろ描き始めたい人がいると思うんだけど，どうですか？まだ，心配なことある？」 ・大きさがこれでいいか心配だなあ。 ・描く場所はこれでいいかなあ。 ・紙は縦に使ってもいいのかなぁ。 「そっか，描く場所や大きさって描きたいものがあるときに大事だよね。じゃぁ，ちょっとこれを見てください。」 ・画面の場所によって感じが違うんだ。 ・画用紙を縦に使うと，背が高いキリンがかけるんだな。 ・キャラクターがはみ出すとより大きく見えるかも。	○大きさの違うキリンを画用紙に場所を変えて貼って見せ，一番イメージに近いものを考えられるようにする。	2 5
第三時	追究②	5　絵に表す。 「自分の思いがより表せるように，画面の構成や描くものを考えて，工夫して描きましょう。」 【めあて】 自分の思いがより表せるように，画面構成や描くものを考えて，工夫して描きましょう。 ・ここにキャラクターを描くとよさそうだな。 ・描くものを考えてあるから，どんどん描いていこう。 ・そうか，こんなものも描けばいいな。	○思いを表現するために描こうと考えたものを描いていたら，描いている場所等を踏まえて称賛する。 ○付箋に書いてないものを新たに見つけて描き始めた児童がいたら，理由を聞き称賛する。	30
	まとめ	4　本時の振り返りを学習カードに記入する。 ・下描きがいい感じですすんでるな。 ・どんな色や描き方をしたらいいか考えてみたい。	○めあてを踏まえ，振り返りができるようにする。 ○次にやりたいことを具体的に書くように指導する。	7

4　授業研究会からの考察

（1）「『一番描きたいこと・もの』や『時間帯』『周りにあるもの』などを考えたことは、思いを膨らめたり明確に持ったりすることにつながったか」について

・教師の「ぬ～と出て、水が垂れているところが描きたいのかな？」の声掛けに頷き、アイデアスケッチを進めることができていた。
・教師の「カタツムリはどんな顔？」という声掛けで、自分のメモに「顔の工夫」と書いた。
・めあてを考えて，思いを深められた子もいたが、全体的に似ている絵が多いと感じた。何のためにこのこと（一番描きたいこと・ものなど）を考えるのかを押さえられていなかったのではないか。
・「一番描きたいこと・もの」が本時の主題だと思う。S児に対して「空は？」「ウミキリンは？」「どの辺に出てくるの？」「何しとるのかな？」等の声掛けを教師がしていたが、子どもは、「キリンをどうしようか」と考えていたのではないか。
・教師の「周りにあるものは？」の声掛けから、C児はどんどん世界が広がっていった。
・M児は、何もしゃべらずずっと描いていた。ただ、イメージがまとまらいようであった。「イメージを膨らめる」と「一番描きたいものを考える」が混同したのではないか。

（2）「描くものを具体的にしたり構図を考えたりしたことで、子どもたちが自分の思いをより表現することができたか。」について

・大きさ、位置を変えると感じが変わることを実感していた。「何を描くか」から「どのように描くか」に子どもたちの表現に対する思考が変わり、生き生きした活動になったように見えた。
・「思考」から「判断」に変わり、「星は…」「花は…」「ドットにしよう」など、今まで培ったものが出る時間。次の時間に「画用紙を選ぶ」「何で描くか選ぶ」等ができるとよいか。「どのように表現したか。」を交流のポイントにできるとよいと思う。
・「絵を見たときに心を動かされる部分」が「思い」の現れだと思う。そこをまだ掘り起こす必要があるように

感じた。似かよった絵になっているということは、思いが絞れていない証かもしれない。言葉にして表してみることも自分の視点を考える上で大切かもしれない。
・配置等を考えたことで、「いかにきれいに見せるか」というデザインの方向へ思考がいったのではないか。

5　指導主事先生の指導より

（1）　指導案に関して

・全校研究テーマとの関連がある点がよい。カリキュラムマネージメントができている。
・「思い」は、新学習指導要領で大切な扱いになっている。
・抽象表現のよさを実感している子どもたちの姿がある。「具体物より描きやすいよ。」
・構想していく上で観点を示していくことはよい。「時間帯」「場所」などの他にも「音」「匂い」「触感」など五感を観点にすることもできる。多用しすぎるとよくないが。
・題材展開が緻密に考えられてある。そのなかで、「評価の時間」、困っている子等に対応するための「授業改善の時間」等を入れることもできる。

（2）　授業に関して

・資料なしであれだけ描き進められることがすごいこと。
・導入では、絵と一緒に語られ、目当て等を決めだすことができていてよい。
・観点を示すことで、発想のひろがりが見られた。
・「キリンは富士山の３倍」という文章表現から、それにこだわり測りながら描いている。
・「キリンはお母さんだから」という思いから、キリンと子どもたちの位置、向き、目線等を考えている。
・第３時の構図を考える場面においては、「選ぶ」という大切な活動がなされている。画材を選ぶ他、「海底だから茶色とこげ茶を重ねてぬる。クレヨンをグルグルとまわしながら線を描く。」等できている。

（3）　今後に向けて

・「思いを持つ手立て」をさらに研究する。
　→発想の中でも材料に触れる、道具に触れることができる。
　→言葉で考えて整理する。途中でも「題名をつけてみる」など。
　→図鑑などを用意する。
　→読み聞かせの仕方を工夫する。
・教材研究から題材設定の工夫を行う。
　Ex.「俳句」から抽象表現。2 色…「過去」「未来」、円…「時計」
　　→材料を選べる。
　　→材料（表現）を試せる。
　　→過去の表現を掲示しておく。（導入等で紹介）
　　→子ども同士の交流

6　事前研究から見えてきたこと

（1）段階を追った丁寧な学習カード、イメージを広げるための細かな言語化によって、子どもたちの描きたい場面がより具体的になってきた。周りにあるものを問いかけることで、イメージが広がっていった子どもたちも多く見られる。反面、「一番描きたいこと・もの＝思い」から離れて、中心がぼやけてしまった子どもたちもいたようだ。学習カードや言語化はとても有効な支援になり得るが、それにとらわれ、表現が学習カードの再現や、言語化したものを配置する作業にならないように気を付けたい。また、教師の働きかけも、子どもに思いを意識させるものにしていきたい。

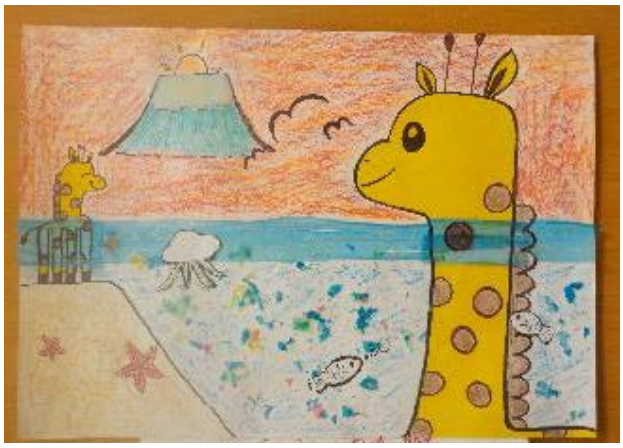
（2）ていねいな構想の時間により、物語のイメージは広がっている。そこから表現に向けた「思い」に持っていくためには、表現のための素材・用具が、構想と一体となる必要性が示唆された。描画材料は紙と絵の具に限られたことではないが、経験の不足している子ども程、表現のための選択肢が少なく、どう表現したらよいか迷ってしまうだろう。素材、用具から、「こんなこともできそうだ」と発想が広がることもある。子どもたちの経験を踏まえ、題材に合った素材・用具を提示していくことも考えていきたい。

資料　描きたいもの・ことを表現することができた子どもたち

① この絵をかくことが楽しくてしかたない
数週間となったＡさん

②描きたい場面を描くことができ、満足すること
とができたＡさん

③ ウミキリンの表情や魚たちとの距離を考え、
仲良し感を出すことに成功し、満足できたＲさん



④描いたものの話をうれしそうに、たくさん
話してくれたＩさん

⑤ 小さい画面の中に自分の描きたかったたくさん
の手を描きこむことができたＨさん